



# 稲穂いなほ

仙南小学校  
H29. 6. 13

No. 11

## 6年生 修学旅行を満喫!

先週の木・金曜日、6年生全員そろって仙台市に1泊2日の修学旅行に行ってきました。忘れ物・電車乗り換えや集合時刻に遅れるなどの失敗もありましたが、ケガや病気もなく充実した旅となったようです(右写真からも伺えます)。自分たちで計画・実行してきた修学旅行の体験は、さらに最高学年としてのパワーを身につける絶好の機会だったと思います。

八木山サイクロンに乗ってビデオ撮影する先生→



## 修学旅行後の週末にも…

土曜日に「小学生対象楽器講習会」が大曲小学校を会場に行なわれ、スクールバンド部が参加し、楽器の扱い方や基本的な演奏法を学んできたようです。また、野球・ミニバスのスポ少では練習試合が組まれ(野球は雨で中止)、汗を流したようです。そして、雨模様だった日曜日には

**郡陸上競技大会**が行なわれ、男子走り幅跳び1位(〇〇〇〇)、5年女子100M 2位(〇〇〇〇)、4年男子100M 4位(〇〇〇〇)、女子400MR 3位、男子400MR 4位という結果を出してくれました。この結果に「喜・憂」はあるのですが、今後のさらなる成長の糧として欲しいものです。

まっもと  
は体験して  
はじめて  
だんなに  
あんな

これらのことから、

何かをやろうとするとき、私たちは、「うまくいくのかな」「失敗したらどうしよう」などと、その結果を考えてしまい、行動に移せずに足踏みしてしまうときがあります。事を起こさなければ失敗はしませんが、何も変わりません。

失敗を繰り返して、人はたくましく成長するのだと思います。子どもたちには、いろんなことに果敢に挑戦してほしいですし、我々(教師・家族)は裏面に記載したことを肝に据え(参考に)、しっかりと見守っていきたいものです。

## 花の苗植え(1・6年、3・4年、2・5年ごと)

昨日、校舎前にある「仙南小」の花壇(写真)にマリーゴールドを植えました(左2枚写真)。心を込めて植付けた花と共に子どもたちの心も体も、これまで以上にぐんぐん成長してくれると期待しています。



## 負ける練習

受け身・負ける練習

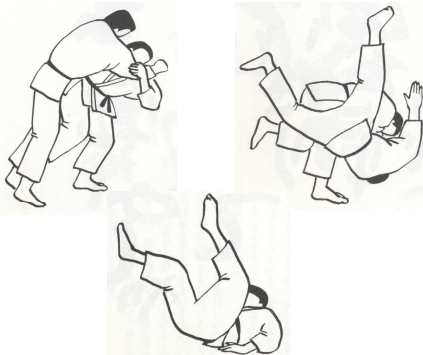
柔道の基本は受け身  
受け身とは投げ飛ばされる練習  
人の前で叩きつけられる練習  
人の前でころぶ練習  
人の前で負ける練習です。

つまり、人の前で失敗をしたり  
恥をさらす練習です  
自分のカッコの悪さを  
多くの人の前で  
ぶざまにさらけ出す練習  
それが受け身です。

長い人生には  
カッコよく勝つことよりも  
ぶざまに負けたり  
だらしなく恥を  
さらすことのほうが  
はるかに多いからです。

そして  
負け方や受け身の  
ほんとうに身についた人間が  
人の世の悲しみや  
苦しみに耐えて  
ひと(他人)の胸の痛みを  
心の底から理解できる  
やさしく温かい  
人間になれるんです。

そういう悲しみに耐えた  
温かいこころの人間のことを  
観音さま、仏さま、と呼ぶんです。



相田みつを著「一生感動一生青春」より

## テスト零点

ゴロウくんはサムライの中のサムライです。豪傑の一人です。子どもながらに大胆なところがあって、少々なことではこたえられることはありません。

ゴロウくんのお母さんもまた、ゴロウくに優るとも劣らないほどです。太っていて、いつも男のように、大きな声で体をゆさぶって笑われるのです。ゴロウくんはきっとそのお母さんの影響を受けているのにちがいません。

ゴロウくんは6人兄弟の5番目です。大勢の兄弟の中でもまれていることも、大いに影響しているのかもしれませんが。

あるとき、ゴロウくんが算数のテストで、零点をとったことがありました。それはよく分かっていないために零点をとったのではなく、問題を読みまちがって考えちがいをした結果だったのです。でも、零点は零点です。

零点をとった翌日のことでした。

「ゴロウくん、きのう、叱られたんだろう」

と、私がたずねますと、ゴロウくんは、

「えっ、ぼくが？ どうして？」

と、ふしぎそうな顔をするのです。

「叱られなかったの？」

「きのう、ぼく、何も悪い事なんかしなかったよ」

と、いつもの愛嬌のある顔で答えます。

「算数のテスト、零点だったじゃないか。あのテスト、お母さんに見せたんだろう」

「うん、見せたよ」

「じゃ、お母さん、何か言ったんだろう」

「うん、言ったよ」

「何て言った？」

「あのな、ぼくが“テスト零点やったで”って言うたら、お母ちゃんが、“うちには子どもがたくさんいて、いろんな子どもがいるけど、テスト零点なんかとってきた子は誰もおらんのだわ。初めてやで。ゴロウはようやるなあ”って、笑ってた」

「へえ“ようやるな”って言うて、笑ってたの」

「うん。大きな声で笑ってた」

「笑っていただけだったの」

と、たずねますと、ゴロウくんは  
「“問題を読みまちごうてん”って言うたら“それが分かってるんやったら、これからはあわてんとするんやなあ。あわてもんは損をするんや”って言うてた」と話してくれました。

私はゴロウさんのお母さんが笑っている顔をふっと思い出していました。



吉岡たすく著「翔べ!小さなサムライたち」より

※『翔べ!小さなサムライたち』は、単行本の書名であり、「テレビ寺子屋(1976年~)」の初代レギュラーであった吉岡たすく氏の著書です。吉岡さんの言動は、学生の頃(今から30年以上前)から教師になろうとしていた私にとってのあこがれでした。